



IMV株式会社

# 決算説明資料

2026年9月期 中間期

・第2四半期累計では4期連続の増収 / 増益  
・引き合い・受注も引き続き好調で下期へ向けて堅調な見通し

売上高(中間期)

増減 +20.8%

**11,511百万円**

営業利益(中間期)

増減 +26.6%

**1,873百万円**

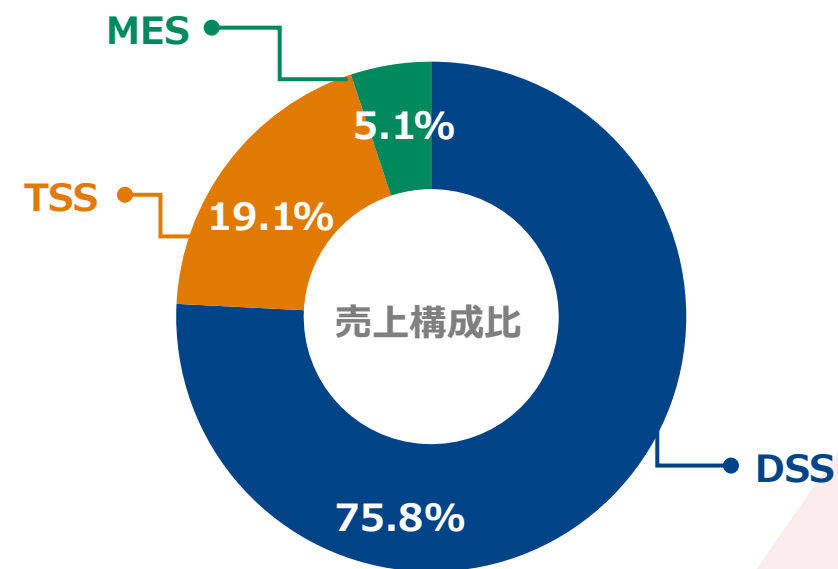
EBITTTDA(中間期)

増減 +26.9%

**2,239百万円**

(単位：百万円)

セグメント別売上高	25/9期 中間期	26/9期 中間期	増減
<b>DSS</b> 振動シミュレーションシステム	7,003	8,727	+24.6%
<b>TSS</b> テスト&ソリューションサービス	1,867	2,200	+17.9%
<b>MES</b> メジャリングシステム	655	582	△11.1%



## 米国西海岸にサービス拠点を設立



26年3月、カリフォルニア州オレンジカウンティにてサービス拠点を開所した。米国での受注・納入台数が増加するなか、当該拠点の担当エリアでは大型機種の導入や予防保全を重視したIMV流のアフターサービスが評価され、需要が高まっている。今後は顧客により近い場所から、納品支援、点検・校正、修理・アップグレードまでをスピーディに支える体制を構築し、IMVが掲げる「極上のサービス」をより確実に提供していく。

## 航空宇宙・防衛産業向けの売上が好調



25/9期以前より受注・売上が増加傾向にあった航空宇宙・防衛産業向けの売上が伸長。日本国内向けに止まらず、欧米各国の主要企業との取引も拡大している。これらの産業では当社が得意とする「大型装置」や「特殊装置」の需要が高く、今後も売上・収益性増への期待が見込まれる。

## TOKYO LEGACY HALF 2025 優勝



25年10月19日に開催された第4回東京レガシーハーフマラソン2025「パラアスリート・視覚障がい(T11/T12)女子の部」にて、当社所属の和木茉奈海が優勝を収めた。タイムは1時間33分32秒。和木は今後もIMV業務と並行して競技活動に取り組むほか、IMVとしても競技に取り組む従業員を引き続き応援していく。

# 決算概要（連結）①

・売上高は前年同期比+20.8%  
・増収効果が牽引し各段階利益も増加

(単位：百万円)

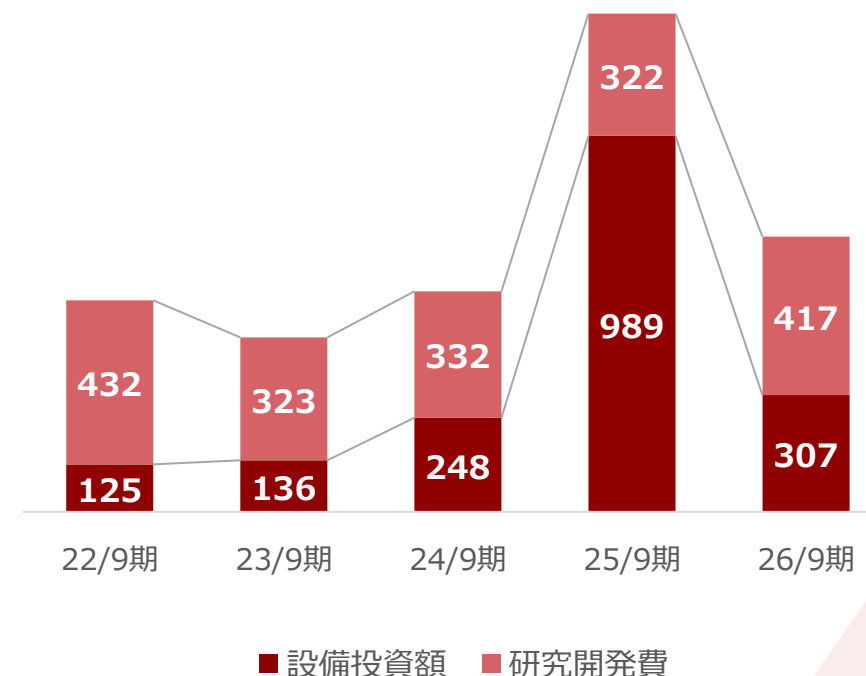
	25/9期 中間期	26/9期 中間期	増減	
売上高 (百万円)	9,525	11,511	+1,985	売上高
営業利益 (百万円)	1,479	1,873	+393	(+) 国内・欧米、航空宇宙向けでDSSが好調
営業利益率 (%)	15.5%	16.3%	+0.7pt	(+) TSSは航空宇宙向けの振動試験やEMC試験が堅調に推移
経常利益 (百万円)	1,567	2,088	+520	(-) MESは振動監視システムの需要一服により
経常利益率 (%)	16.5%	18.1%	+1.7pt	前期比減収
中間純利益 (百万円)	1,194	1,462	+267	利益
中間純利益率 (%)	12.5%	12.7%	+0.2pt	(+) 採算性の向上
EPS (1株当たり当期純利益) (円)	75.11	91.89	+16.78	(-) 研究開発費の増加
				(-) 人的資本に関する投資増加

- ・25年9月期の設備投資により減価償却費が増加
- ・株価の大幅上昇により、時価総額も前年同期比大幅上昇

(単位：百万円)

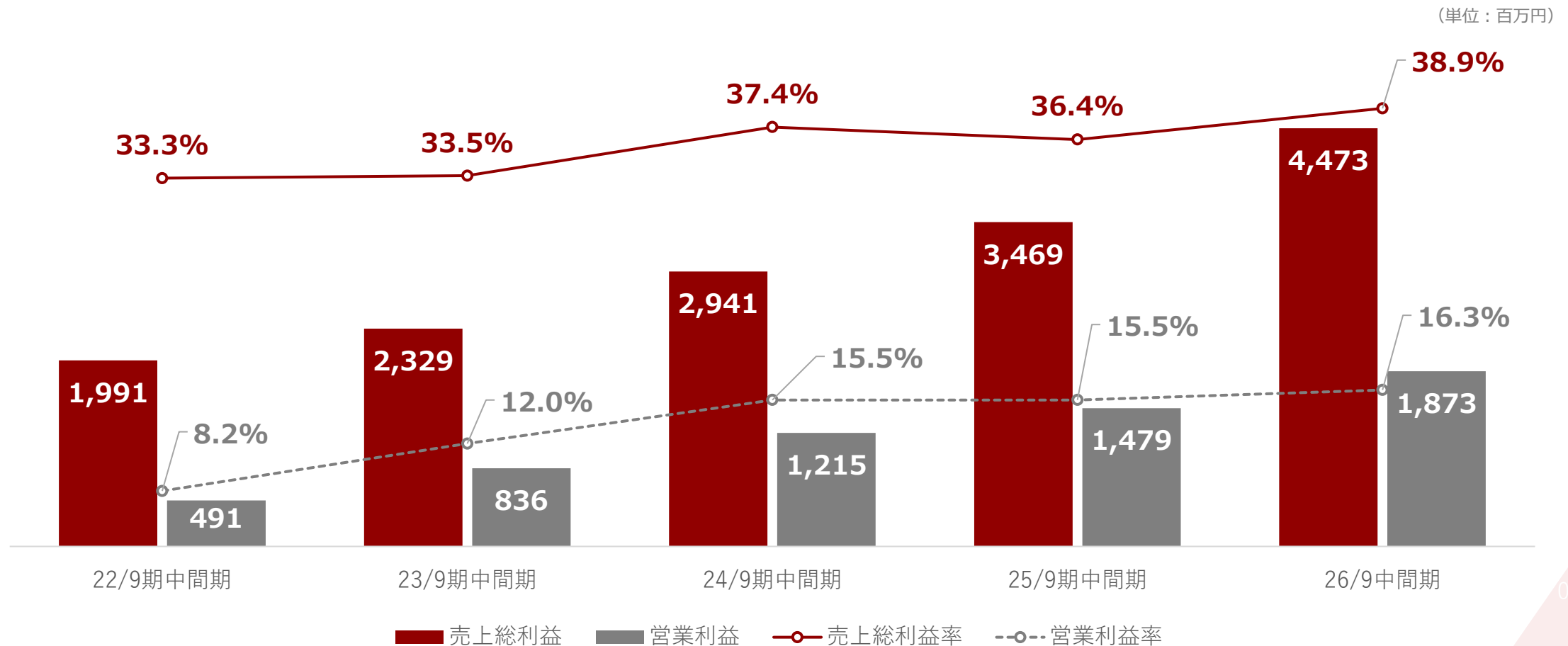
	25/9期 中間期	26/9期 中間期	増減
設備投資額 (百万円)	989	<b>307</b>	△682
減価償却費 (百万円)	285	<b>365</b>	+80
研究開発費 (百万円)	322	<b>417</b>	+95
第2四半期末株価 (円)	1,548	<b>2,774</b>	+1,226
第2四半期末時価総額 (自己株式を除く) (百万円)	24,632	<b>44,210</b>	+19,578

設備投資額および研究開発費の推移



# 売上総利益および営業利益の推移

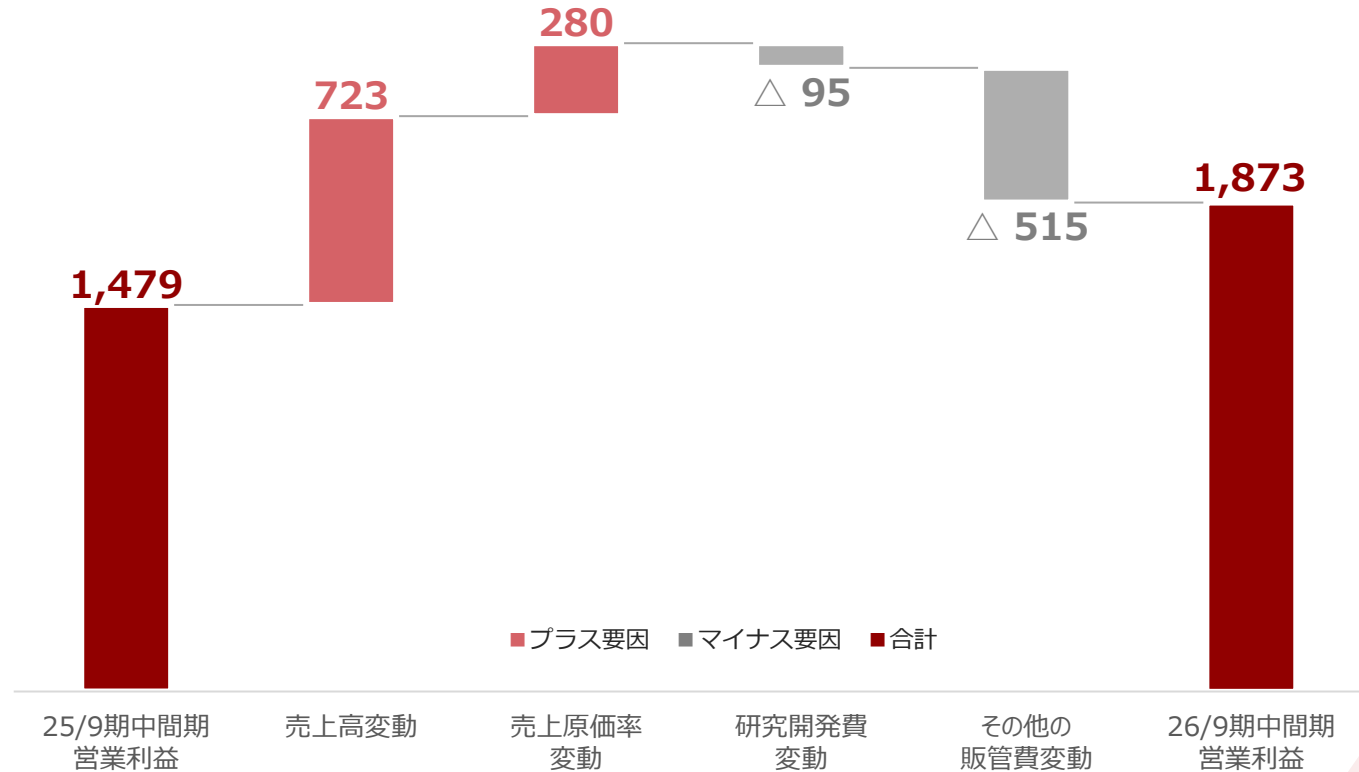
・利益率の良い大型案件の比率が増加したことで、粗利率が向上



・販管費が増加した影響を増収効果が上回ることで営業利益は増加

(単位：百万円)

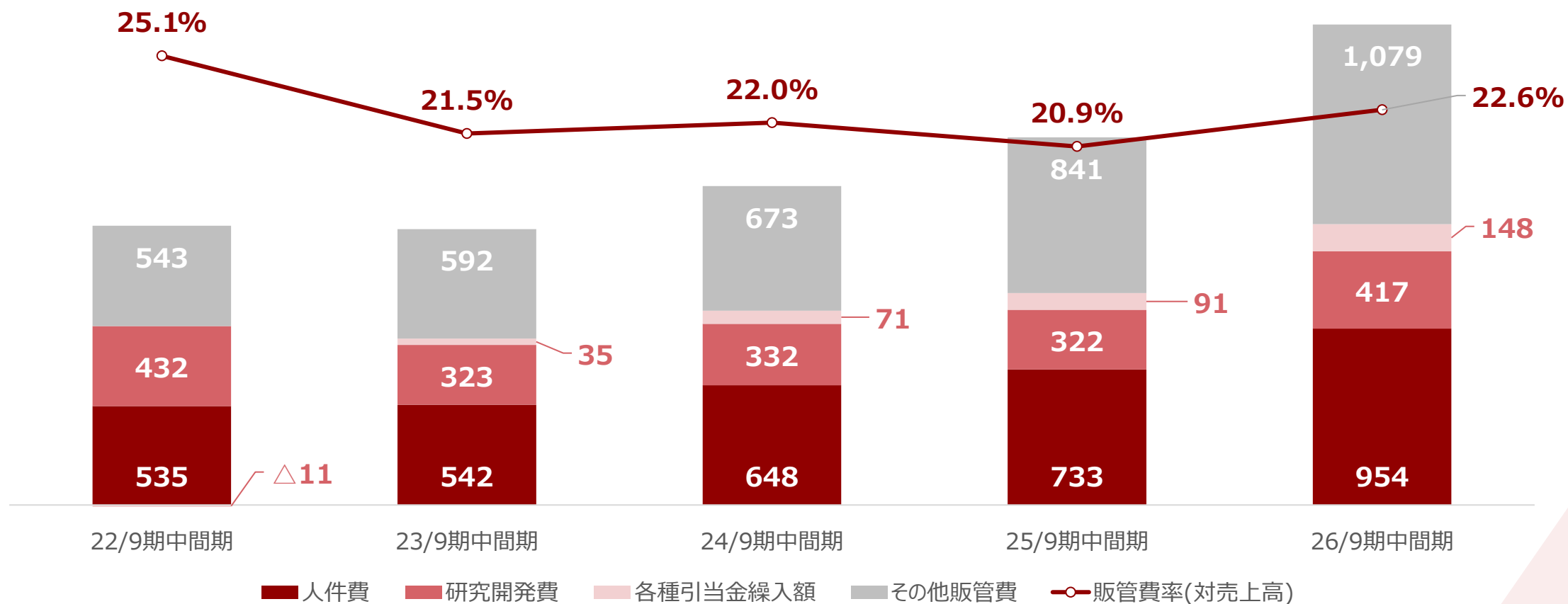
25/9期中間期 営業利益	1,479
売上高変動による影響	+723
売上原価率変動による影響	+280
研究開発費変動による影響	△95
その他の販管費変動による影響	△515
26/9期中間期 営業利益	1,873



# 販売費及び一般管理費の内訳

- ・人件費や研究開発費が増加
- ・その他販管費には売上増に伴う販売手数料の増加が含まれる

(単位：百万円)

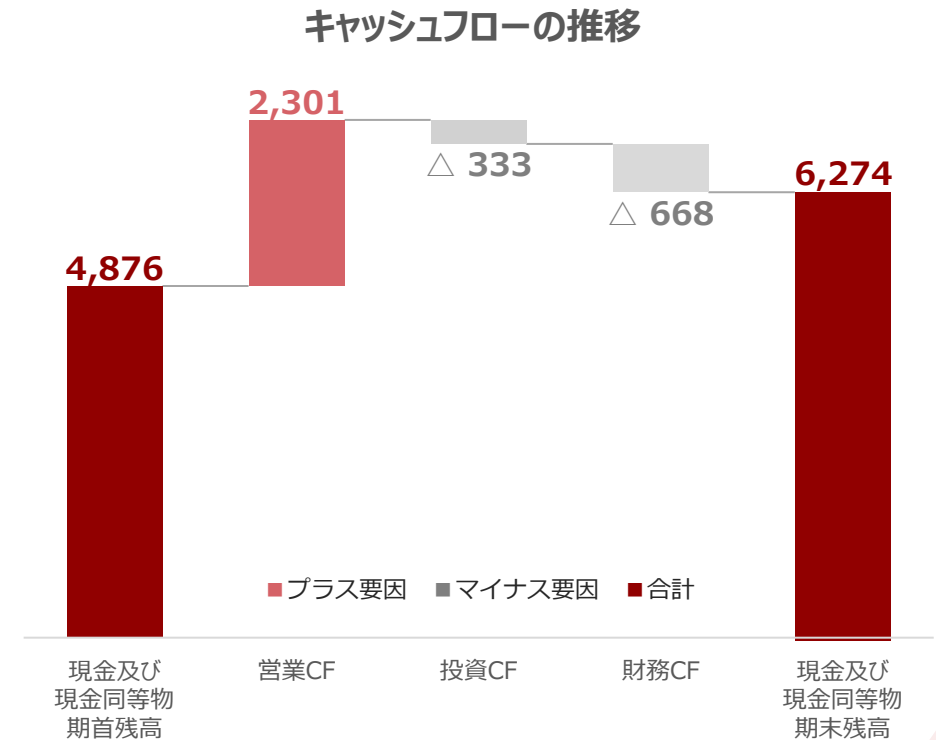


# キャッシュフローおよび資本の状況

- ・26/9期の営業CFは、純利益と契約負債の増加による影響が大部分を占める
- ・25年9月期に実施した大型投資の落ち着きもありFCFも拡大

(単位：百万円)

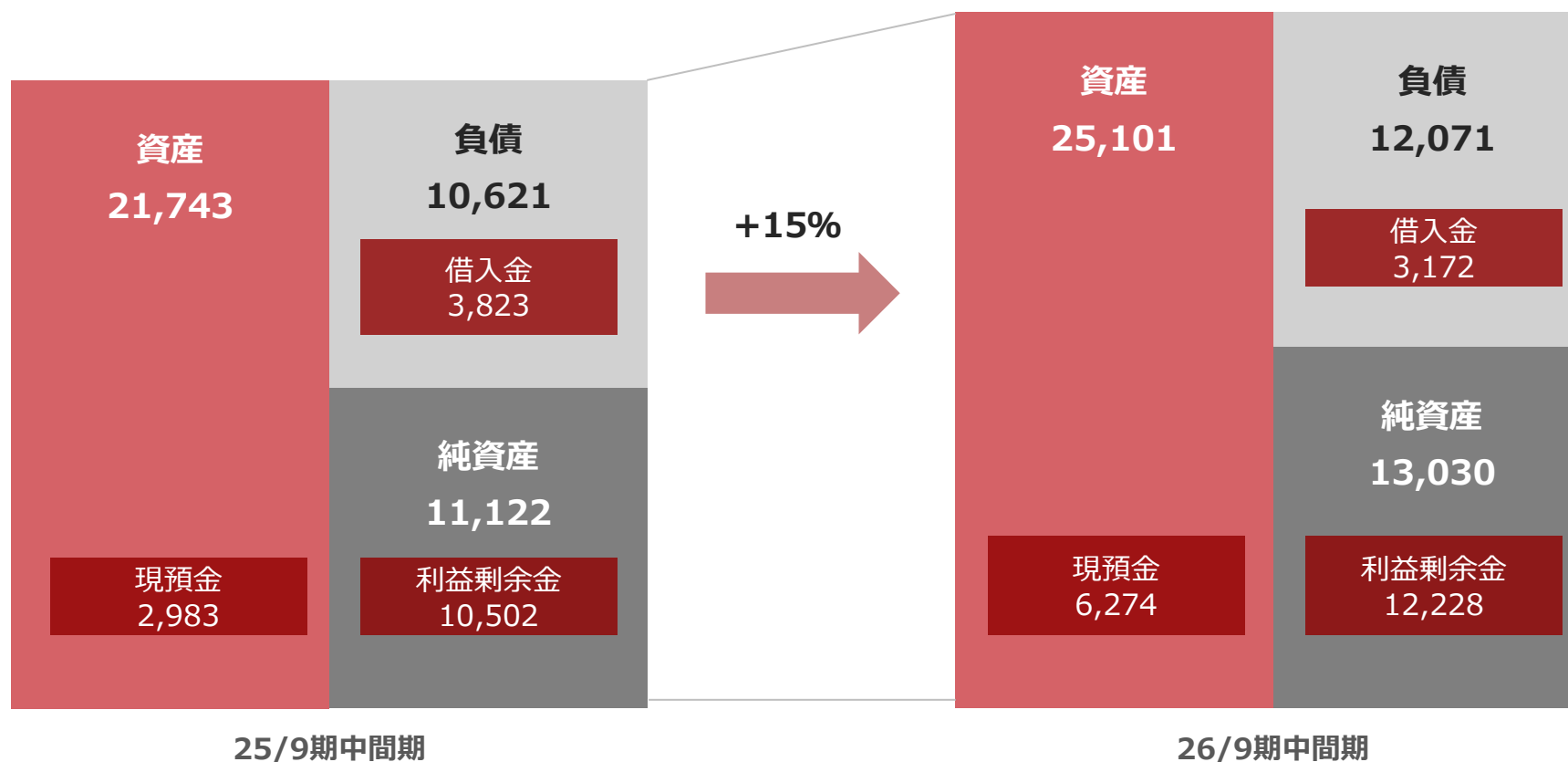
	25/9期 中間期	26/9期 中間期	増減
営業キャッシュ・フロー	1,013	2,301	+1,288
フリー・キャッシュ・フロー	310	1,968	+1,657
現金及び現金同等物残高	2,983	6,274	+3,291
自己資本	11,122	13,030	+1,907
自己資本比率	51.2%	51.9%	+0.8pt



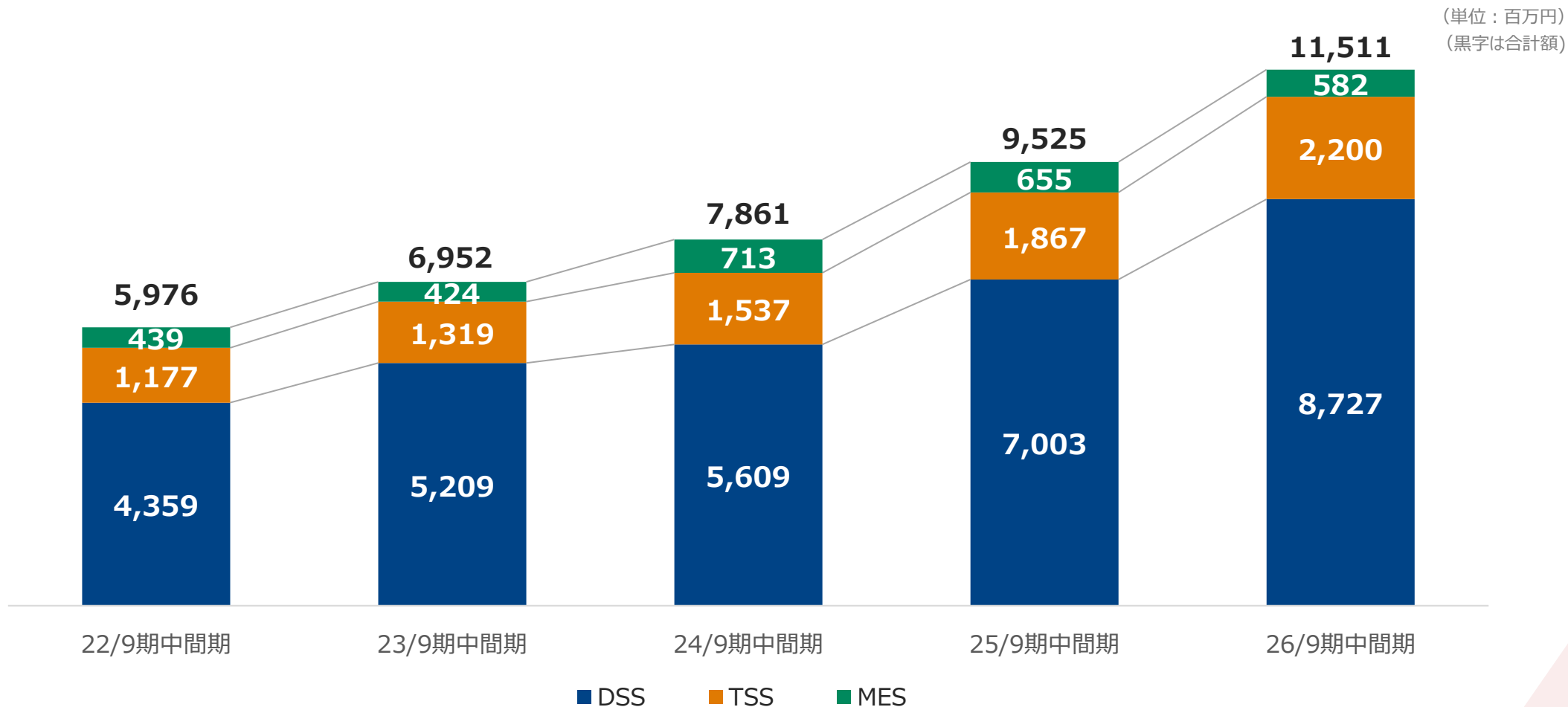
\* 差額は現金及び現金同等物に係る換算差額

・営業CFの影響で現預金が大幅に増加し、資産合計も昨年同期比+15%

(単位：百万円)

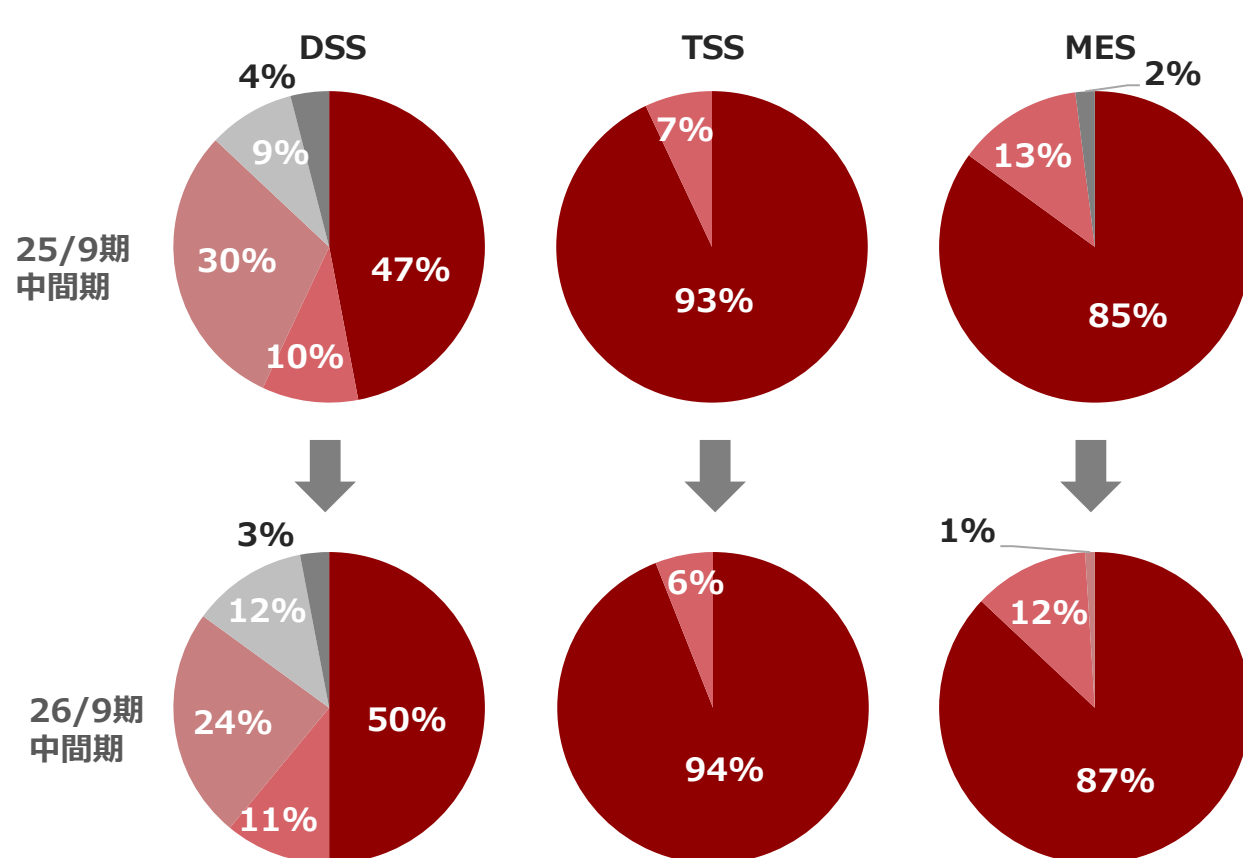


・DSS売上は前年同期比+24.6%と全体の成長を牽引  
・TSSも投資効果が表れ、売上+17.9%と事業成長が継続



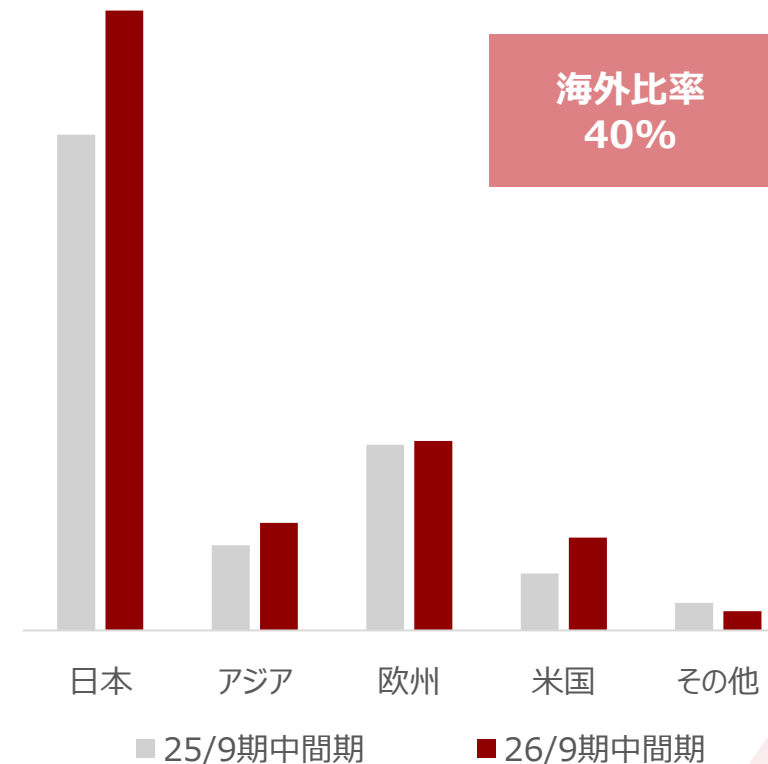
# 事業別 地域別 売上構成比・売上高

・日本・アジア・欧米において売上高は前期比プラス  
・日本国内向けDSSが好調であることが影響し、海外比率は微減



(単位：百万円)

全社地域別売上高



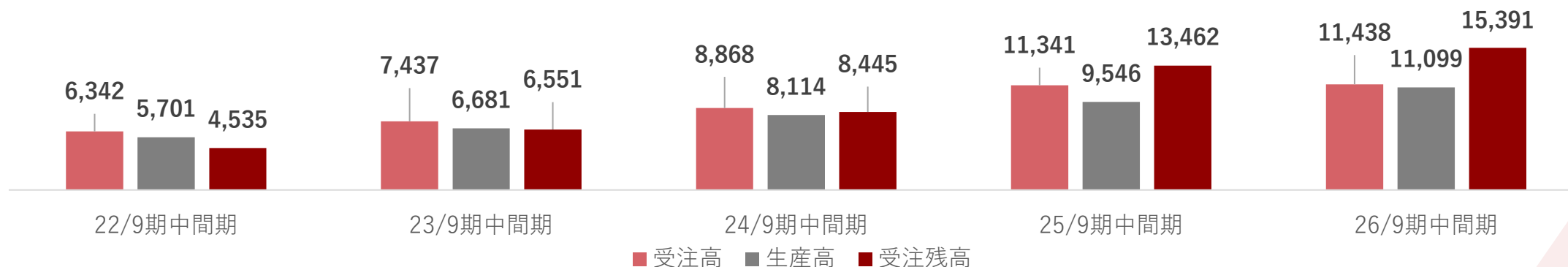
■ 日本 ■ アジア ■ 欧州 ■ 米国 ■ その他

# 事業別 受注高・生産高・受注残高

- ・生産高は4期連続で増加、現在も生産増強の投資を進めている
- ・足元の引き合い、受注状況も引き続き堅調

(単位：百万円)

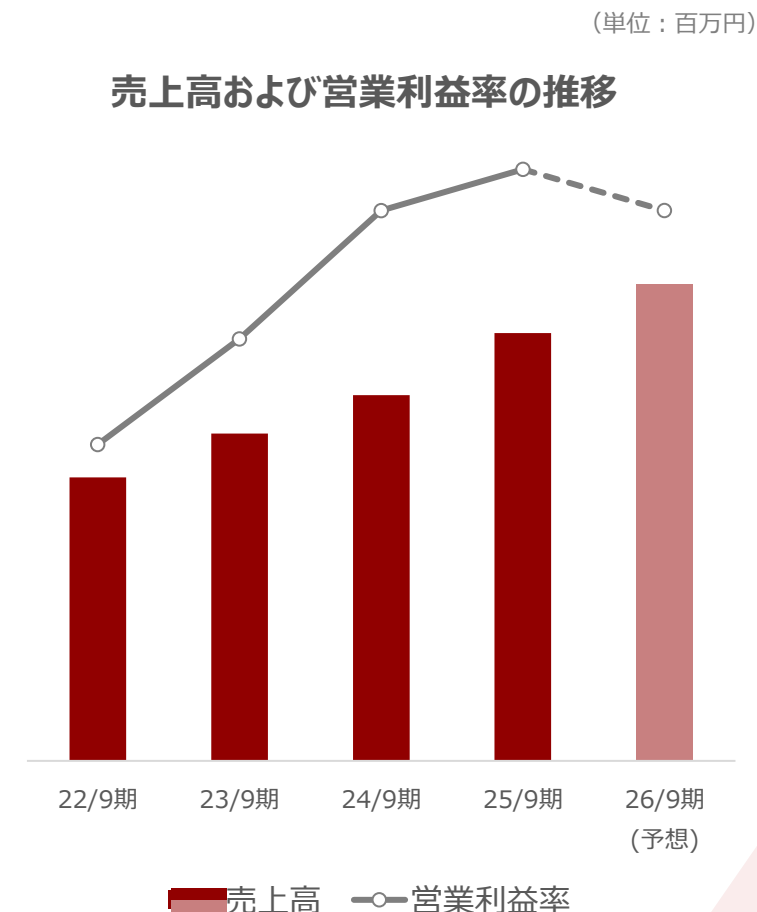
	受注高			生産高			受注残高		
	25/9期中間期	26/9期中間期	増減	25/9期中間期	26/9期中間期	増減	25/9期中間期	26/9期中間期	増減
DSS	8,931	<b>8,995</b>	+0.7%	7,022	<b>8,312</b>	+18.4%	12,611	<b>14,688</b>	+16.5%
TSS	1,828	<b>1,903</b>	+4.1%	1,867	<b>2,205</b>	+18.1%	525	<b>443</b>	△15.6%
MES	581	<b>540</b>	△7.1%	655	<b>582</b>	△11.2%	326	<b>258</b>	△20.9%
全社	11,341	<b>11,438</b>	+0.9%	9,546	<b>11,099</b>	+16.3%	13,462	<b>15,391</b>	+14.3%



# 業績の見通し（通期・連結）

・26/9期は通期で売上高200億を見込む  
・必要な設備投資や研究開発活動を継続することで更なる競争力の向上を図る

	25/9期 実績	26/9期 予想	増減
売上高(百万円)	17,941	20,000	+11.5%
営業利益(百万円)	2,315	2,400	+3.6%
経常利益(百万円)	2,569	2,400	△6.6%
当期純利益（親会社株主帰属）(百万円)	1,935	1,850	△4.4%
売上高営業利益率(%)	12.9	12.0	△0.9pt
1株当たり当期純利益(円)	121.68	116.28	-
1株当たり配当金(円)	30.0	30.0	-

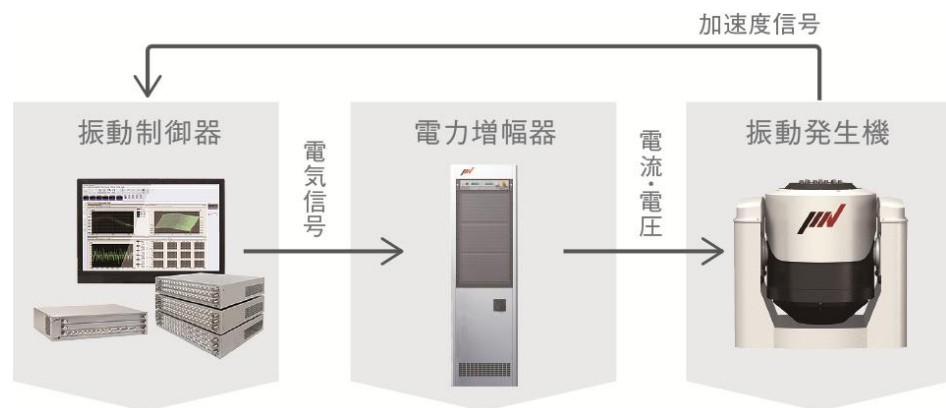


売上高

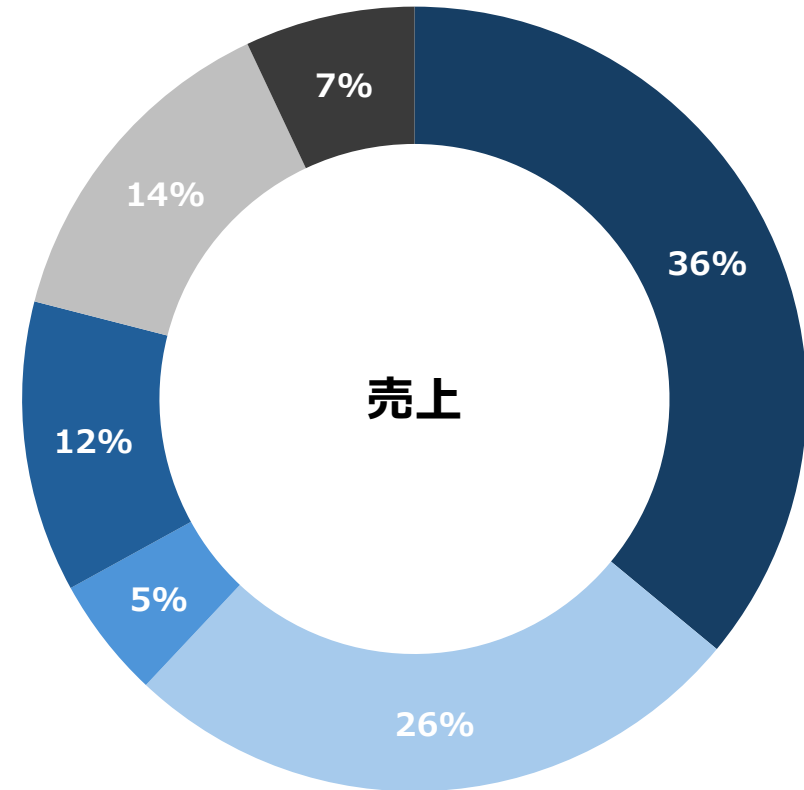
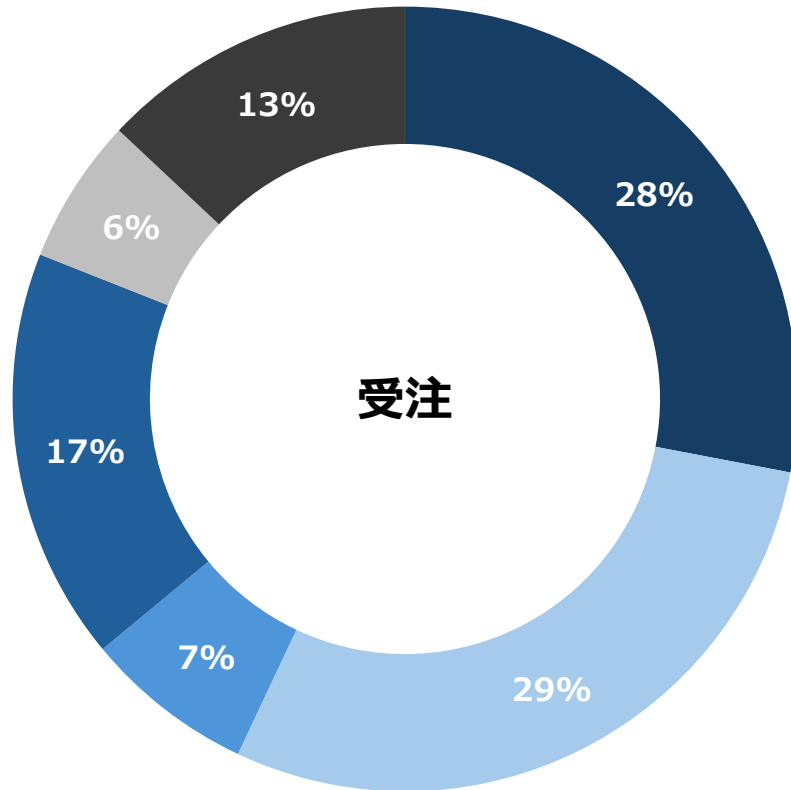
8,727百万円

(+24.6%)

- 地域別売上では日本国内と米国向けが活況
  - 産業別売上は防衛産業向けが大きく伸長し、売上増を牽引
  - AIサーバ関連向けの販売が続くほか、  
建機・農機など大型機にも電動化の流れあり
- ⇒ 大型装置や特殊装置の需要が旺盛



# DSS 産業別（受注・売上）構成比



■ 自動車 ■ 防衛 ■ 航空宇宙 ■ 機械・建機・鉄道 ■ 試験所 ■ その他

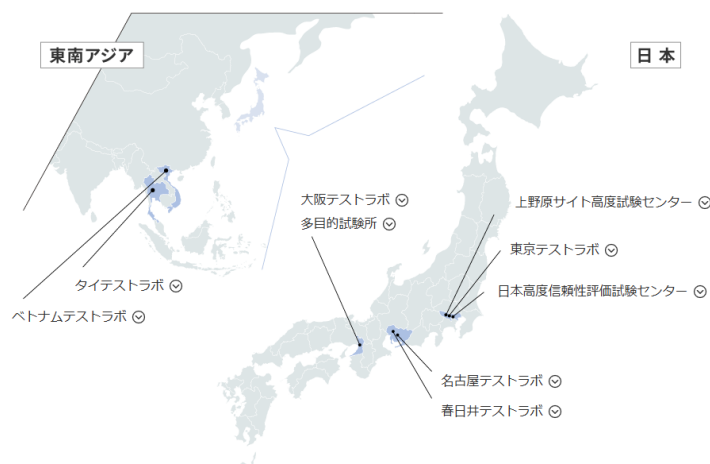
対象期間：25年10月1日～26年3月31日

売上高

2,200百万円

(+17.9%)

- 航空宇宙・防衛関連の振動試験、EMC試験が堅調に推移
- 2025年9月期に開設・強化した国内施設はいずれも活況
  - 大阪本社 多目的試験所
  - 日本高度信頼性評価試験センター(e-TCJ) EMC試験
- JAXA宇宙戦略基金の第2期に採択、今後研究開発を進める



振動試験

バッテリー試験

耐震試験

コネクタ評価試験

S&R試験

乗り心地試験

落下試験

長尺試験

環境試験

多点加振試験

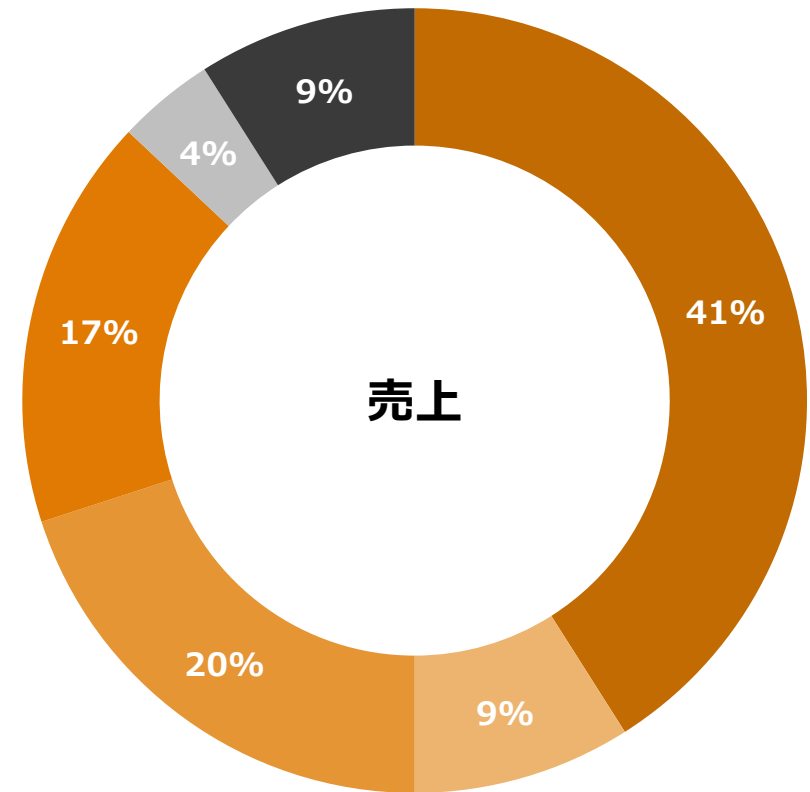
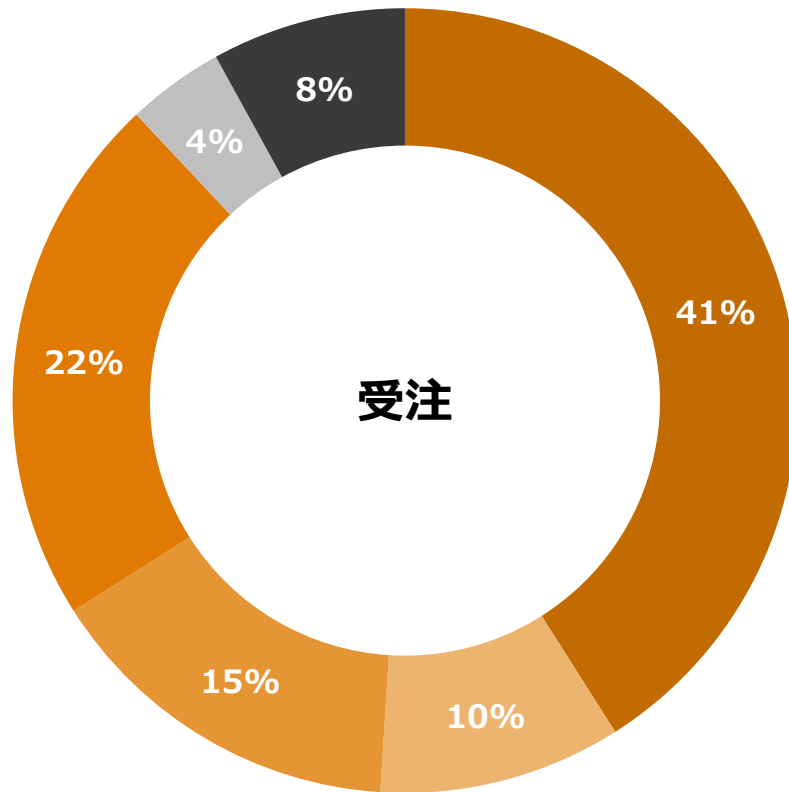
ひずみ計測

Etc...

試験所認定  
ISO/IEC17025

情報セキュリティ認定  
ISO27001

# TSS 産業別（受注・売上）構成比グラフ



■自動車 ■防衛 ■航空宇宙 ■機械・建機・鉄道 ■試験所 ■その他

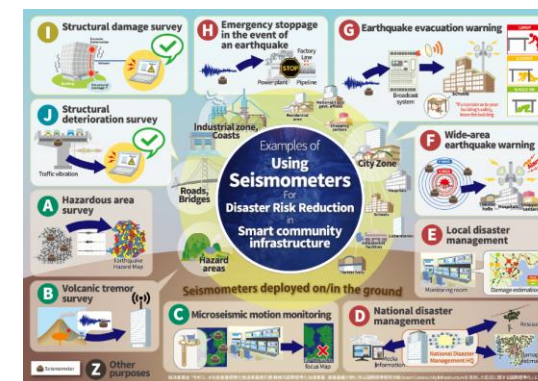
対象期間：25年10月1日～26年3月31日

売上高

582百万円

(△11.2%)

- 公共インフラや民間施設における防災関連需要が堅調に推移したものの、振動監視システムの需要が一服したことで売上高は前年同期比で減収
- 予知保全BUではVD-unitを中心にソリューション提供を拡大中
- 東南アジアを中心に防災BUの実証事業や販促活動を実施



「経済産業省 令和3、4年度産業標準化進事業委託費 戦略的国際標準化加速事業：産業基盤分野に係る国際標準開発活動 Smart Community Infrastructureを活用した防災に関する国際標準化」にて作成



事前にIMV株式会社の許可を書面で得ることなく、本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止致します。  
本資料に掲載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。  
本資料には将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は公表時点で入手可能な情報に基づいており、  
将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。

お問合せ先

## IMV株式会社 経営戦略室



**メール**  
info-ir@imv-corp.com



**IR情報**  
<https://we-are-imv.com/about/ir/>